# 土木紀行

# 歴史国道・国頭方西海道

## 沖縄県国頭郡恩納村

### 道路と地域の概要・歴史

15世紀の初頭，尚巴志（しょうはし）によって三山（北山（ほくざん），中山（ちゅうざん），南山（なんざん））が統一され，琉球王国が誕生しました。尚巴志は首里城を居城とし，首里に王府を置きました。

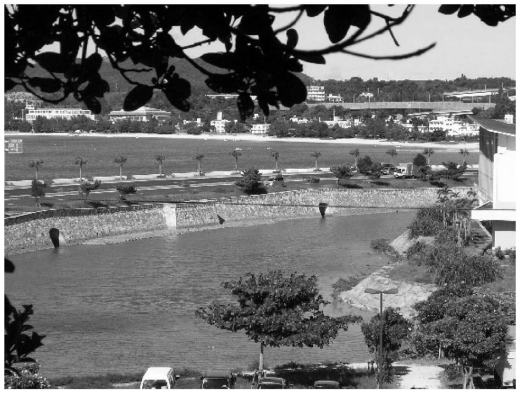
首里王府時代の道路は宿道（しゅくみち），脇道（わきみち），原道（はるみち）の三つに区分されていました。

宿道と脇道は今で言うと国道と県道に当たり，原道は田畑に通じる農道に当たります。その中の一つである宿道は，首里から地方に通ずる主街道として首里王府からの急ぎの文書を伝達する道として16世紀頃から整備が進められました。

「国頭方西海道（くにがみほうせい）」は，琉球王府の中心だった首里城を起点に浦添，読谷，名護を経由し本部半島の今帰仁（なきじん）番所を終点とする，各間切（現在の市町村）をつなぐ宿道で，沖縄の祖先崇拝の行事である「今帰仁上り」にも利用されました。道幅８尺（2.4m）の両側には松が６尺（1.8m）間で植栽され，情緒ある松並木風景でした。しかし，戦災などにより，住時の面影はほとんど残っていません。

### 歴史的・文化的遺産

その中でも仲泊（なかどまり）地区は，約3500年前の住居跡を含む五つの貝塚が分頒しており，古来から人々の生活の場であったことがうかがえます。また，仲泊遺跡（国指定史跡）は当時の生活環境をしのぶことができます。沿道沿いには唐人墓の碑があります。また，グスク時代（10～15世紀）の英



写真－１　国道58号付近の整備個所

写真－２　仲泊遺跡（国指定史跡）

写真－３　比屋根坂の石畳

雄，護佐丸（ごさまる）の居城であった山田城跡（国指定史跡）や，護佐丸父祖の墓があります。往時の宿道として使われていた石畳の比屋根坂（ひやごんびら）を登ると，頂上から西海岸の絶景が一望できます。

仲泊地区の南側の山田城跡の近くには琉球王朝時代に建造された石造りのアーチ橋の山田谷川の石矼（いしばし）（国指定史跡）がかかっており北側の集落には一里塚が残っています。

## 仲泊地区の整備

国頭方西海道の恩納村仲泊地区において平成８年度から平成15年度にかけて「歴史国道」として整備が行われました。

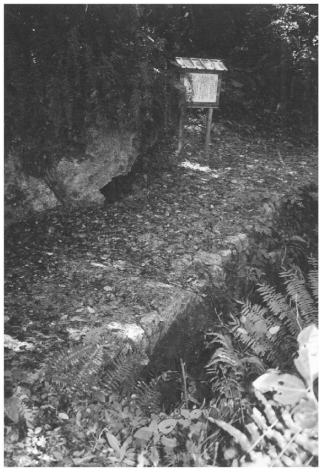
整備テーマは「いにしえの琉球の歴史，風土文化を活かした空間形成」「落ち着いた空間の中で，住時の歴史，文化に接し時代の変遷を感じる道作り」。訪れる人たちが，その地域の歴史ロマンを体験できる道として整備されました。そのために全区間を七つに区分して，それぞれの場所に応じて，遺跡・文化財などは保存，復元し，体験ルートとして海沿いの遊歩道などを創出しました。

例えば創出ゾーンである，現在の58号仲泊拠点地区（国の直轄事業）では，58号の内側に，かつて那覇の崇元寺（そうげんじ）から松山（まつやま）に架けられていたという「長虹堤（ちょうこうてい）」をイメージした歩道を設置しています。また，復元した宿道には，沖縄で長い歴史を持つアーチ型の石造橋二基を復元するなど，新しいながらも歴史の薫る道づくりに力を入れています。

## おわりに

現在は，恩納村博物館，ポケットパーク，駐車場も整備され，ふれあい市，農水産物販売所も設置されています。

県内でも有数なリゾート地として知られている恩納村へお越しの際には，国頭方西海道へも足を運ばれて，琉球の歴史，文化へも触れてみてはいかがでしょうか。



写真－４　山田谷川の石矼（国指定史跡）

写真－５　石畳と松並木の整備

写真－６　長虹提をイメージした歩道の整備

写真－７　アーチ型石橋の整備